

松ヶ崎少年補導だより

下鴨少年補導委員会
松ヶ崎支部

発行責任者
支部長 北川 憲一

少年補導委員会との一年

平成三十年度
松ヶ崎小学校 PTA 会長 大嶽 握

早いもので、私が松ヶ崎小学校のPTA会長になり1年がたちました。

その間、少年補導委員会さんとは年間を通じて、様々な行事で一緒にしました。

特に思い出深いのは、11月に開催され、今年度で33回目と、歴史のあるイベント「子どもフェスティバル」です。

「子どもフェスティバル」の目標は「親と子がつどい、作品の制作や手作りの味覚、ゲーム等を通じて健全な親子友人関係の醸成と心身の健全な発達に寄与する」でした。

これまで参加者として参加することはあっても主催者側となるのは初めてで、事前の打ち合わせも数回あり、1日の行事であつてもこんなにも手間暇をかけてもらっていたのだなあと改めて感じました。

うどんやたこせんなどの模擬店、しめなわづくりや警察・消防の体験ブース、他の団体も参加され、とても賑やかなイベントで、どこかこのブースを見て、子どもたちの笑顔があふれてい

ました。

「子どもフェスティバル」を始め「飯ごう炊さん(カレー)」や、「街頭パトロール」など、PTAだけではできないようなことを、子どもたちにしていただいたことについて、PTA会長として、そして保護者のひとりとして感謝申し上げます。ありがとうございます。

少年補導委員会もPTAも、子どもたちの健全な育成を目標のひとつとして活動しています。

子どもは「学校」と「家庭」で教育するとは言いますが、この松ヶ崎学区では、少年補

導委員会を始めとした、各種地域団体の皆さまの協力もあり、本当の意味で「地域の子は地域で育てる」が実現できていると感じています。

今後もPTA会員を始め、おやじの会など、現役保護者の各種行事への協力をより一層進め、歴史のある活動を私たちが受け継いでいきたいと思います。

下鴨少年補導委員会松ヶ崎支部の今後の発展と、松ヶ崎学区の子どもたちの健全育成を祈念しまして、あいさつとさせていただきます。



正田町 S.S.さん

少年補導の歌

東 政治郎 作詞
蔵田春平 作曲

- 一、明るい街に 人は和し
明るい家に 子は伸びる
大人子供は しっかりと
心をつなぎ 手をつなぎ
何でも話す 子になろう
何でも聞ける 親になろう
- 二、涙する子は ふいてやり
迷える子には 道教え
許し励ます 親心
子供は親の 鏡なら
我が子他人の 区別なく
みんなでもそう補導の光
- 三、善意はみもの いつの日か
あの子はかえる 夢さめて
貫く愛に 真実に
こたえてくれた 子の笑顔
その喜びと 使命こそ
消してはならぬ 補導の灯

さしのべる 手のぬくもりを どの子にも

おやじの会

会長 秋吉秀樹

松ヶ崎にお住いの皆様には、日頃よりおやじの会の活動にご理解とご協力を頂きまして誠にありがとうございます。

平成18年に10名で発足したおやじの会も今年で13年目を迎え、会員数も40名を越えました。松ヶ崎小学校、PTAとの連携を中心に地域の大学である京都工芸繊維大学の学生とも連携し「ホタルの会」の開催や、各地域団体の皆様とも協力して夏祭りや新宮神社祭礼のお手伝い、少年補導委員会主催の飯盒炊爨や子どもフェスティバルのお手伝いなど各種行事への参加を通して地域に根差した団体として日々活動しております。職業も年齢も出身地も様々なおやじ達もご多難のため、地域のために行える事を楽しく語り合っています。

さて、近年情報量の増加やライフスタイルの変化、少子高齢化など様々な要因により、地域における人と人との付き合いが希薄化しているということが言われています。これまで地域が担ってきた安心・安全な街づくりや地域全体で子ども達を育てるといった意識・役割が崩れてきており、それに伴う犯罪の増加や災害時における地域の安心・安全の確保が難しくなっているといった事を数多くの記事や報道で目にします。こうした

近年の地域の変化により様々な課題が発生しているという現状を見て、地域コミュニケーションの重要性を改めて感じています。

一方、私たちの住む松ヶ崎地域に目を向けますと、少年補導委員会をはじめ各地域団体の皆様が密に連携し、子ども達がのびのびと成長できる安心・安全な街づくりに大変ご尽力頂いております事に感謝を申し上げます。昨年は地震、大雨、台風に記録的な猛暑、と自然災害の多い年でした。松ヶ崎地域においても避難所の開設や倒木、停電などの被害が出ました。実際にこうした自然災害を経験した事で、地域団体の一員でもあるおやじの会としても人と人との繋がりをさらに強くし、地域の防災や子ども達をはじめ地域の皆様が安心して暮らせる街づくりにより一層貢献していきたいと考えています。

今後もおやじの会の活動を活性化させ発展・継続していく事で、黄色いTシャツを着て楽しく活動している我々を見たことも達が、大人になり人と人との繋がりの重要性を理解し、生まれ育った松ヶ崎地域や新たな地域に貢献しようと思ってもらえる様に、少年補導委員会をはじめ各地域団体の皆様との連携を深めていきたいと考えております。

窓

子どもの読書習慣

柳井田町

庄司尚文

幼い頃、自宅の本棚に「少年少女世界文学全集」というクリム色に臙脂の美しい装丁が施されたケース入りの児童書が並べられていた。兄のために買った本らしいが、空想好きなインディア派の私は、それらの本をよく読みふけた。好きだったのは、「幸福の王子」。アンパンマンのような精神の、王子の像の物語である。人のためになること、人の痛みに思い致すこと、幼いながらもそんな正義感が芽生えたのはおそろくは読書からだったように思う。今、改めて子どもと読書を考えてみたい。

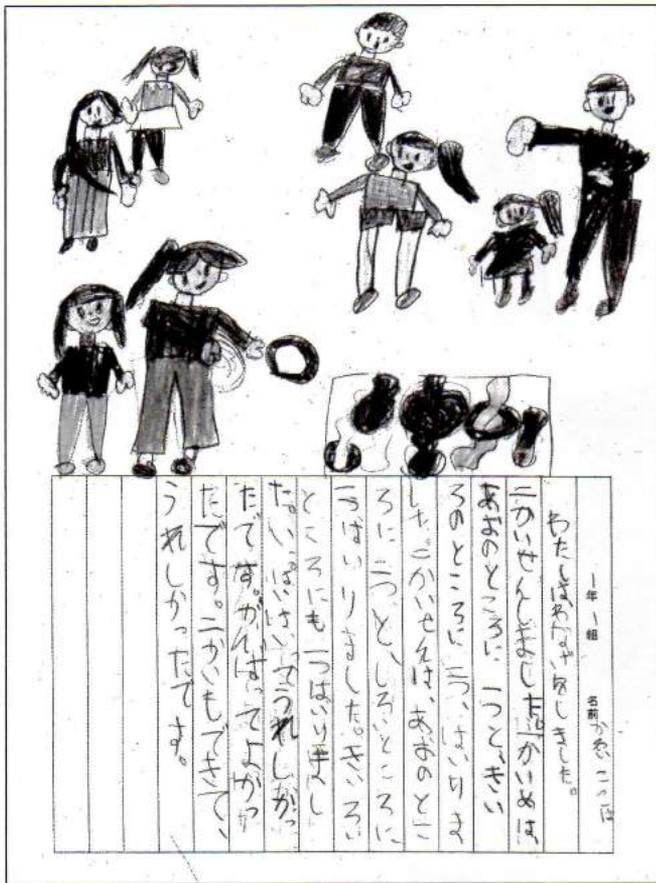
2000年、「子ども読書年」が設定され、翌年には「子どもの読書活動の推進に関する法律」が施行された。当時、子どもの読書離れが指摘され、さらにはOECDのPISA型学習到達度調査で日本の中学生の学力低下が危惧されていた。そして注目されたのがフィンランド。読解力をベースにした学習法は「フィンランド・メソッド」と呼ばれ、一躍脚光を浴びることとなる。子ども読書年や法の制定にはそんな背景もあったのだろう。

今も「子どもの読書離れ」は指摘され続けている。しかし、果たしてそうか。毎日新聞社と学校図書館協議会が毎年実施している「学校読書調査」では小中学生の1か月間（調査は毎年5月）の平均読書冊数は小学生が98冊、中学生が43冊（2018年5月調査）。昨年よりも減っているものの、ここ20年で小学生は2倍、中学生は3倍近く増えている。また、1冊も本を読まなかった不読率は、2000年に小学生16%、中学生43%だったものが2018年には小学生8.1%、中学生15.3%と大幅に改善されている。同年実施された京都市の「読書活動について

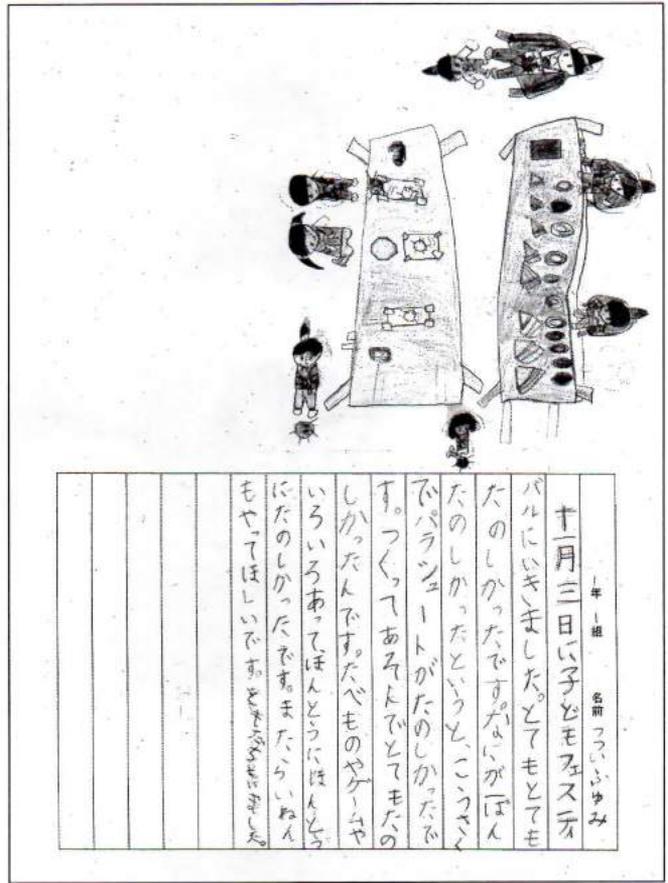
のアンケート調査」においても、小学生は34%、中学生は10%と、本を読まない児童生徒は、全国よりもさらに少ないという結果が示されている（両調査とも、雑誌や漫画は含んでいない）。

読書冊数の増加や不読率の低下は紛れもなく学校生活に負うところが多いように思う。朝の10分間読書や読書マラソンといった取組の成果であろう。反面、家庭での読書習慣はどこまで根付いたのだろうか。塾や習い事など多忙極まりない子どもたちにとって、自由な時間が出来れば、真っ先にテレビゲームに向かいはしないか。先の京都市のアンケートでは、休日の過ごし方の小学生の1位がテレビゲーム（携帯型ゲーム機・スマホを含む）で49.3%、5年前より10ポイント増加。中学生は部活動に次いで2位がテレビゲーム、40.9%と15ポイント増加している。しかし、ゲームの中の主人公は、相手の気持ちに立てるのだろうか。自らと対話できるのだろうか。想像力を養えるのだろうか。

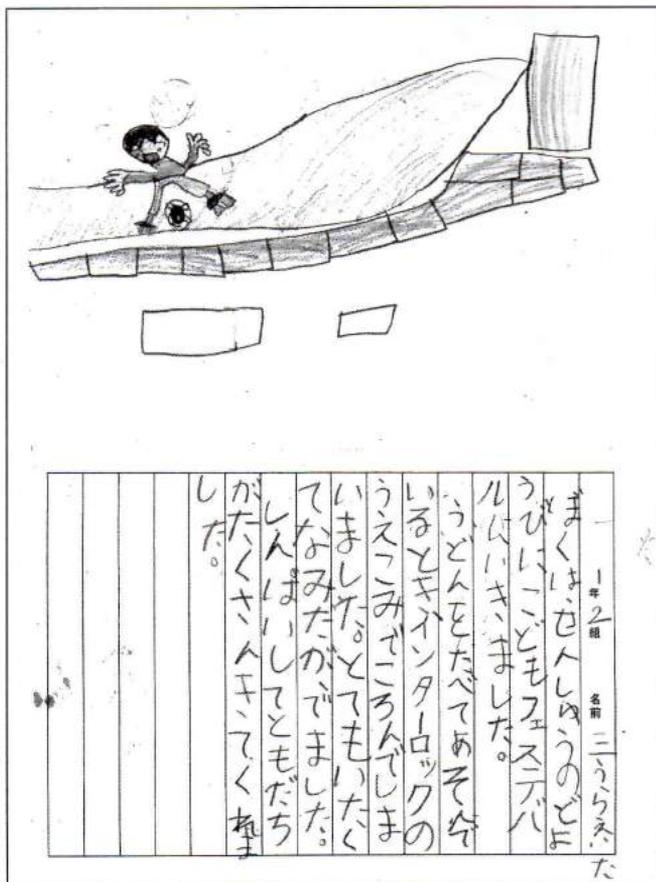
子どもたちに読書を勧めたいのは、想像力の鍛錬になる最適のツールだからである。まさしく「生きる力」の源とさえ感じられる。子どもの頃に読書活動の多い成人ほど「未来志向」「社会性」「自己肯定」「意欲・関心」「文化的作法・教養」「市民性」のすべてにおいて意識・能力が高いとの調査結果（国立青少年教育振興機構、2013）がある。また、子どもの頃の読書活動と体験活動の両方が多い成人ほど現在の意識・能力が高いとされている。相手の立場に立つ、共感する心を育む。今こそ子どもたちを読書に誘いたいものである。大人の不読率50%という現状を猛省しながら。



松ヶ崎小学校 1年1組 かわいこは



松ヶ崎小学校 1年1組 つついふゆみ



松ヶ崎小学校 1年2組 三うらえいた



松ヶ崎小学校 1年2組 し水せりか



子ども フェスティバル



支部活動 状況報告

前号に引き続き、当支部のその後の活動状況につき、ご報告いたします。

- 1 十月七日 第六十四回区民運動会に協賛参加いたしました。
- 2 十月十二日 支部役員会
- 3 第三十三回子どもフェスティバルについて、催し物や役割分担について検討いたしました。
- 4 十月十三日 松ヶ崎少年補導だより第六十七号を発刊し、三〇〇部を印刷、市政協力委員さん、隣組長さん方のご協力により、全世帯、関係機関に配布いたしました。
- 5 十月十四日 松ヶ崎学区防災訓練に参加いたしました。
- 6 十月二十四日 支部役員会
- 7 第三十三回子どもフェスティバルについて催し内容、役割分担の最終確認を行いました。
- 8 十月二十六日 アピカルイン京都にて行われた敬老会に参加いたしました。
- 9 十月二十八日 京都アスニーにて京都市少年補導委員会の表彰式が行われました。
- 10 十一月三日 第三十三回松ヶ崎子どもフェスティバル
- 11 十一月二十一日 支部役員研修会および懇親会をアピカルインにて行いました。フェスティバルの反省や来年に向けての話し合いをいたしました。
- 12 十一月二十一日 標語掲出
- 13 七月に選出されたいじめ・非行防止標語のポスターを校区内に掲出しました。
- 14 十一月二十四日 京都工芸繊維大学学園祭構内パトロールを行いました。
- 15 十二月十五日 左京区役所にて下鴨単位少年補導委員会の表彰式が行われました。
- 16 一月十四日 アピカルイン京都で行われた松ヶ崎消防分団出初式に出席しました。
- 17 一月十九日 松ヶ崎児童館の新春お楽しみ会のお手伝いを行いました。
- 18 二月二十五日 松ヶ崎少年補導だより第六十八号の編集会議を行いました。
- 19 古紙回収を毎月第四金曜日に行っています。皆様のご協力に感謝いたします。

以上ご報告申し上げます。

支部長 北川 憲一